

徳島子どもと教育

徳島県教職員の会
〒771-0017徳島市川内町鶴島115
黄金ビル 徳島労連事務所内
TEL 088-665-6644
FAX 088-665-2117
携帯 090-2891-5189
eメール dp12287892@pf.lolipop.jp
2018年12月12日 No.232

「変形労働時間制」でなく、 教職員の大幅増員・少人数学級の実現を！

「変形労働時間制」の出どころは？

今、教育現場は、小学校への「外国語」の導入、「道德」の小中学校での教科化、授業時数増などで多忙化が深刻になっています。過労死ラインである月 80 時間を超えて時間外勤務をしている教員は、全国調査で小学校で3割、中学校で6割にのぼっています(文科省「平成 28 年度 教員勤務実態調査」)。

こうしたなか徳島県教育委員会が11月27日、教職員の「働き方改革プラン」(取り組み指針)をまとめました(徳島新聞 2018.11.28 付報道)。「改革プラン」の中で県教委は、「年単位で管理する変形労働時間制の導入に向けた検討」をあげています。

この県教委の「変形労働時間制」の出どころは、文科省です。文科省が中教審に示したのは、「1年単位で平均して1週間あたり40時間を超えない範囲で業務の繁閑に応じて労働時間の配分を認め、夏休みなどの長期休暇で休日を消化する」(朝日新聞デジタル 2018年10月15日)というものです。

その文科省が「変形労働時間制ありき」とも思われる動きを始めた背景には、教育内容に異常なほど介入して教職員の多忙化に関わってきた自民党の教育再生実行本部が今年の5月、1年単位の変形労働時間制導入の検討を政府に求めたことがあるといえます。

「変形労働時間制」で労働時間は減るのか？

1年単位の変形労働時間制は、1日8時間を超えて働く日(1日10時間、1週52時間まで)があっても、年間を通じて労働時間が平均週40時間以内に収まれば残業代を払わないというものです。

そもそも変形労働時間制のねらいは、残業代を抑制することであり、労働時間を減らすことではありません。それは、労働政策研究・研修機構が民間企業を対象にした2014年の調査で、「1年単位の変形労働時間制」企業において、過労死ライン超えの月250時間超の割合が「通常の労働時間制」企業の2倍になっていることから明らかです。



県教委に長時間労働の是正を求める会員

過労死に直結する長時間過密労働を隠蔽

変形労働時間制が教育現場に導入されれば、学期内の労働時間が増やされますから、今まで以上の長時間労働になり、長期休業にたどり着く前に過労死してしまう人の増加が危惧されます。また、夏休みに「穴埋め」をするといいますが、学校には「閑散期」はありません。夏休みには個人面談や家庭訪問、部活動・研修・出張・校外行事などがあり、年休さえも消化できない現実があるのです。また、仮に「穴埋め」を実行できたとしても、その場合は活用できない年休が山積みになって捨てられてしまいます。

結局、自民党や政府・文科省の唱える変形労働時間制は、教育現場の深刻な労働実態の改善に背を向け、小手先で安上がりを目指した「働かせ方改悪」で「決着」させるものと言えます。これは、1日に11時間も12時間も働くのが当たり前という過労死に直結する異常な長時間労働の実態を隠蔽し、さらなる過労死の増加につながる危険なものだといえます。

大幅な教職員増・少人数学級実現を！ 学力テスト・押しつけ研修などの廃止を！

教員が疲弊しては、子どもたちに心から夢や希望を語ることはできません。教員のゆとりある生活は、重要な教育条件でもあります。厚生労働省の教職員対象にした調査で、約8割の教員が、「過重勤務防止に向けて必要」なことは「教員の増員」と回答しています(平成30年版過労死等防止対策白書)。日本は、先進国の中で教育予算がGDP比2.9%と最下位です。わずか0.1%増やすだけで教員増は可能です。そして今、教員増を要求する私たち教職員の運動が急速に国民の支持を得るようになってきています。これを恐れた自民党や政府・文科省が危機感を持ち、「変形労働時間制」で教職員の長時間過密労働問題を「決着」させ、幕引きしようとしているといえます。

長時間労働の是正は、変形労働時間制ではなく、教職員定数の抜本的な改善による大幅な教職員増や少人数学級を実現すること、学力テスト・押しつけ研修・免許更新制の廃止や業務を大幅に削減をすることによって実現できると考えます。また、給特法を改正し、時間外勤務に手当を支給することも併せてなされるべきだと考えます。(喜多)

望年会のご案内

- ◇日時と参加費: **12月28日(金)18:00**から、**2時間飲み放題5000円**
- ◇場所: **居酒屋とくさん** 徳島市寺島本町西1丁目42(電話088-654-1930)徳島駅から徒歩2分
- ◇申し込み: **12月25日までに**、喜多まで(電話090-2891-5189) お待ちしています！



ゆきとどいた教育を求める全国署名のお願い

ゆきとどいた教育を求める全国署名・徳島県署名にご協力をお願いします。

地域・職場でたくさん署名を集めてください。集めた署名は、全国署名は衆議院・参議院議長宛に、県署名は県議会議長宛に請願として提出します。

まずは1月末までに返信用封筒で署名の返送をお願いします。最終は、2月20日までです。

教育要求の実現を求める会員の声

機関紙231号で、県教委への要請内容を報告しました。これを受けて、会員みなさんから教育条件・勤務条件の改善を求める声が寄せられています。

教職員の会・世話人一同、貴重なご意見をお寄せいただいたことに感謝するとともに、要求実現のために取り組んでいく決意を新たにしているところです。教育署名を集め、要求を実現していきましょう。

小学校英語の数々の問題点について

2020年度から施行される改訂学習指導要領では、小学校中学年から「外国語活動」が、高学年では「外国語科」が導入されることが示され、今年度（2018年）から先行実施されています。「外国語活動」「外国語科」の導入によって小学校の現場では、ますますの教育内容の詰め込みや教員の加重労働が始まっています。

○週35時間をどのように捻出するか。

毎日6時間の授業時数にする、朝の自習の時間をモジュールにし、時間を捻出するなど考えられていますが、子どもにも教員にも負担が増えます。木曜日の15時以降は教員の研修の時間に当てていますが、研修内容は増える一方で研修時間は減ります。働き方改革にも反します。

○英語の免許をもった小学校の教員は少ない。

外国語を指導できる力をもった教員は不足しています。初めて外国語に触れる時にこそきちんとした指導を行うべきではないでしょうか。

○高度な新学習指導要領の目標、内容

「外国語」の目標は大変高度な内容になっています。4技能（読む・書く・聞く・話す）に「やり取り」を含めた5技能を学習することになり、600～700語程度の語を学ぶことから始まり、連語、慣用表現、単文、肯定文、否定文、疑問文、代名詞、動名詞、過去形も入り、「主語＋be動詞＋補語」「主語＋動詞＋目的語」などの文構造も学ぶことになります。

「言語活動」として取り上げられている事項には「挨拶」「自己紹介」「買い物」「道案内」の他に「考えや意図を伝える：意見を言う、賛成する、承諾する、断る」等々中学校学習指導要領と同じような内容が盛り込まれています。

これまでと同じように教科の学習をしながら、これだけの英語学習を子どもに強いることに憤りを感じます。

立教大学名誉教授で長らくNHK「ニュースで英会話」の講師をされていた鳥飼玖美子氏は、「母語を育てることが、将来、使える英語につながります」と述べています。小学校で英語嫌いという子どもが増えないよう、これからの外国語教育のあるべき姿を考えていきたいと思います。

（阿波・吉野川市ブロック 小学校 会員）

宿泊学習や修学旅行時は、看護師の配置を

小学校の保健室では、養護の先生が発熱のためベッドで寝ている児童の様子を伺いながら、その傍らで、外で遊んでいて遊具にぶつかった児童の頭を冷やしたり、運動場で転んだ児童の傷の手当てをしていたりしています。それに加え、「体がなんとなくしんどい」と言って児童がやってきたり、保健室登校をしている児童が来ていたりする時もあります。

最近、保健室登校の児童やアレルギー症状を持つ児童の対応など、養護の先生の役割が増えてきています。不登校の児童が増えていますが、養護の先生が少しずつ時間をかけて信頼関係をつくり、不登校だった児童が安心して登校できるようにしています。



また、アレルギーを持つ児童も増えていて、その中でも、アナフィラキシー症状が起こったことがある児童もいるので、いつアナフィラキシーショックが起こるかもしれない状況に本人も保護者も教職員も不安を抱えています。

このように養護の先生は、学校を離れられない状況です。しかし、宿泊学習や修学旅行がある時は、養護の先生は学校にいません。全児童に対して安心して教育活動が行えるようにするためには、宿泊学習や修学旅行時には、看護師を配置することが大事だと思います。

（徳島市ブロック 小学校 会員）

長時間労働に対する取り組みの現状

教員の長時間労働が社会的な問題として注目を浴びている。国や県、市町村でもそれぞれ対策を考えている。私の勤務している市では、新入大会終了後の11月から部活動は週2日、土日どちらか1日と平日1日を休みにすることが始まった。本校では平日は木曜日を休みとしている。これまでは、木曜は5時間授業なので、部活動は時間をとってまとまった練習ができていた。今は、木曜日は部活動がないので教員は早く帰っている。しかし、他の曜日は、今までとあまり変わらない。

また、勤務時間の記録も始まっている。自分で記録して報告するのだが、それだけで何の代償措置もない。少なくとも、以前はテストの日や長期休業中に、早く帰っていた。「いつも部活で遅いので、こんな時は早く帰ってください」と管理職は言っていた。今は、「帰るなら年休で」となっている。日常的な長時間労働を減らしていくには、教員を増やすしかないのではないだろうか。

（阿波・吉野川市ブロック 中学校 会員）

